

第6回 吹田市バリアフリー推進協議会 議事概要

日時：令和7(2025)年8月26日(火) 14:00～16:00

場所：吹田市役所総合防災センター

6階多目的室及びWEB会議

1. 開会

(1) 開会あいさつ

《省略》

(2) 傍聴者の入場

・1名(途中入場1名、計2名)

2. 議事

(1) 特定事業の取組み状況について

○事務局

《資料1-1、1-2を説明》

○委員

説明資料を見るとハードのバリアフリーは進んだが、心のバリアフリーが不十分と感じる。先日もJRの改札でインターホンを使ったが、約20分待たされた。実際には係員が近くにいたのに対応が遅かった。詳細を確認したい。

○会長

現在の議題から外れるため、後ほどの意見交換で時間を取って確認したい。

○委員

手話教室に多数の参加があったということで、とても良いと思う。その方たちに駅で会うことがないのだが、何かわかる方法があれば教えてほしい。

○委員(大阪モノレール)

関西鉄道協会の手話教室に参加している。また、各改札には筆談具やタブレットを備え、無人駅はないため、すべての駅で聴覚障がいへの一定の対応が可能である。手話はある程度対応可能だが、完全ではない。

○委員

手話ができる職員を示すマークはあるのか。なければ直接尋ねるべきか。

○委員（大阪モノレール）

名札にシールを貼っているが小さく見えにくい場合がある。現状を確認して回答する。

○会長

言語対応は表示のわかりやすさが重要である。また現状の取組状況を共有してほしい。

○委員

多くの事業者がサービス介助士を取得している一方、阪急電鉄はユニバーサルマナー検定へ切替えた。その理由を確認したい。

阪急バスでは当事者参加の研修を行うなど積極的だが、他社でも関連した取り組みをしているか伺いたい。

○委員（阪急電鉄）

ユニバーサルマナー検定は障がい当事者が講師を担い、実態に即した内容である。3年ごとの更新時に最新内容の動画で知識更新できることもあり移行した。

○委員（阪急バス）

当事者参加の研修会は、昨年度に吹田営業所で初実施した。当事者の話は現場対応に有用で、マニュアル通りにいかない場面に活きる。継続実施したいと思っている。

○会長

他事業者も類似事例があれば報告願いたい。次回以降、取組状況の報告を求める。

（２）江坂駅現地点検結果について

○事務局

《資料２を説明》

○会長

意見に星印がついているものは「早急に対応が必要」な項目とのことだが、これは誰が決めているものか。

○事務局

点検者が、早急な対応が必要として挙げたものである。

（３）吹田市バリアフリー基本構想策定について

○事務局

《資料 3-1～3-3 を説明》

○会長

議題 4 のスケジュールについても、あらかじめ説明いただいた方が話をしやすい。事務局は資料 4 の説明を行うこと。

（４）今後のスケジュールについて

○事務局

《資料 4 を説明》

○会長

今後、半年で新基本構想の素案を作成し、さらに半年で精査する。今日は策定に向けた基本的な考え方と具体イメージを示した。現時点の懸念点や疑問を挙げてほしい。

○委員

学校はバリアフリー化が進んでいない例がある。生活関連施設として位置づけ、整備を進めてほしい。また、本日の会場建物（総合防災センター）の正面自動ドア付近の植え込みや点字ブロック形状が動線の妨げである。まずはこの施設の動線改善から検討してほしい。

○事務局

公共施設は吹田市公共施設個別施設計画に基づき整備する。反映可能なものは基本構想に盛り込みたいと考えている。民間施設は、計画への直接反映は難しいが、調整できれば盛り込みたい。

学校は避難所指定が多く、文部科学省・国土交通省ともに国の方針としてバリアフリー化を重視している。このようなことから、教育委員会と連携し整備を進めたい。

本施設については、施設管理者と協議したいと思うため、まずは現地の立会をさせていただきたい。

○委員

市内の小中学校のうち、校門から体育館まで完全にバリアフリー化されている学校はどれくらいか。今は答えられないと思うが、確認してほしい。また、整備を行う場合の体育館のスロープは常設か臨時か確認したい。

○事務局

体育館までのルートを確認する計画を教育委員会が進めている。全校で順次整備される見込みである。

○会長

民間施設への強制は難しいが、状況整理は行っていくとのことだった。また、公共施設については今日の指摘を考慮しつつ、庁内連携で整備が推進されることを期待したい。

○副会長

学校などの生活関連施設の追加や経路検討を評価する。民間建築物については、大規模改修の機会などに事業を位置づける余地を文言上残すとよい。学校のバリアフリー化は国の支援策もあるため、未整備校を積極的に位置づけてほしい。

○事務局

民間建築物については、例えば北千里駅前の再開発や万博記念公園前のアリーナなど、大規模事業では、計画として一体的にできればと考えている。

○委員

公共施設の状況整理についての話を関心高く聞いた。社会福祉協議会では、地域の学校や施設を使うことが多いため、バリアフリー化が進んでいくとありがたい。

○会長

事務局の提示した基本的な考え方やスケジュール感などの方向性は、お認めいただいたとしてよいか。

○委員

《意見なし》

(5) その他

○会長

議事外の質問に移る。事前質問及び回答について、事務局から説明のこと。

○事務局

1 点目、府道 135 号（山田下交差点～岸部中 5 丁目）で点字ブロックがなく、歩道舗装が悪い。至急整備を求める——大阪府茨木土木事務所の回答を求む。

○委員（大阪府茨木土木事務所）

まず、大阪府の歩道整備についての考え方を述べる。通学・歩行者・自転車が多い路線やバリアフリー法に基づく生活関連経路を重点化区間として整備を進めている。新たに事業を着手する場合、優先整備区間を定め、たううえで事業化を検討することとなっている。当該区間については、全面整備を直ちに実施することは困難だが、現地確認のうえ必要箇所は部分補修などの対応を行っていききたい。

○事務局

2 点目、阪急電鉄の乗降サポート Web 予約（PA パッセンジャー）の運用状況や課題を確認したい——阪急電鉄の回答を求む。

○委員（阪急電鉄）

当社では、本年の4/24からウェブで乗降サポートを予約できるシステムを導入した。全87駅のサポート件数の約1%がWeb予約、吹田管内は約2.5%で平均より高い利用率である。運用の中でスクリーンリーダー（音声読み上げ）の修正やアカウント登録方法の指摘をいただいたことから、システムの改修を行っている。利用者からは、利点として情報伝達の確実性や予約変更の容易さの評価をいただいている。課題としては、利用率向上であり、周知を強化する。当事者の口コミも非常に重要となるためご協力いただきたい。

○事務局

3点目、令和7年6月に手話施策推進法が施行されたが、事務局（総務交通室）の対応を確認したい——障害福祉室との協議を踏まえ、事務局から回答する。

吹田市では、既に手話言語条例を制定・施行し、推進方針も策定済みである。事務局では、法律第7条を踏まえ、学校における手話教育等の充実のため、関係部署と協議を行い、バリアフリー基本構想へ教育啓発特定事業を記載する。また、法律第9条に基づき、手話を使用するもの等の意見反映を図るため、ヒアリング等を実施する。

○事務局

4点目、自転車通行の矢羽根型の路面表示が増えたが、路肩が劣化したままのことがある。施工前に道路状況を確認しているか——大阪府茨木土木事務所の回答を求む。

○委員（大阪府茨木土木事務所）

施工前に路面状況を確認し、必要に応じて補修している。追加の補修が必要な場合は検討する。

○事務局

市道については道路室の回答を読み上げる。矢羽根施工にあたっては、道路状況を確認しつつ施工している。具体的に道路状況が悪い箇所があれば、現地確認のうえ、整備方法・時期を検討する。

○事務局

5点目、泉町1丁目交差点はスクランブル交差点か。スクランブル表示への変更や取締りの強化の考えなどを伺いたい——吹田警察署の回答を求む。

○委員（吹田警察署）

同交差点は斜め横断の交通規制を実施しておらずスクランブルではない。これは、主道路の交通量や形状から、ガードレール撤去の安全性に課題があるためである。交通取締りと啓発は継続する。

○事務局

6点目、意見ではないが、市役所内歩道のエスコートゾーン整備への謝意をいただいた。

○事務局

7 点目、亥の子谷公園の正面出入口のバリアフリー化について——公園みどり室の回答を読み上げる。

ご要望いただいている南側出入口のスロープ設置は考えていない。東側出入口から便所・水飲み場のバリアフリー経路を再整備する。なお、東側の自転車ゲートと佐竹台 6 丁目バス停付近のボラードは速やかに撤去する。

○事務局

8 点目、万博公園方面への歩道で点字ブロックの未整備や樹木根上がりが多い——大阪府茨木土木事務所の回答を求む。

○委員（大阪府茨木土木事務所）

視覚障害者誘導用ブロックの設置は、バリアフリー法に基づく生活関連経路などにおいて、連続して誘導できるよう、優先的に設置を進めている。指摘いただいた路線についても優先度を踏まえて検討していく。根上がりは状況に応じ順次対策する。

○事務局

事前質問への回答は以上である。

○委員

市内は歩道の根上がりや無歩道区間が多い。具体的な場所を教えてほしいと言われるが、私たちだけではすべての意見を伝えることは難しい。ホームページに写真を撮って送ってくださいとあるが、使い方がわからない人もいる。意見収集の仕組みをバリアフリーの観点で強化してほしい。

○会長

重要な宿題として受け止める。

○委員

国道 479 号の阪急吹田駅から総合福祉会館の押しボタン付き信号機付近で点字ブロック剥離と傾斜がある。早急に補修と勾配緩和を求める。併せて、豊津駅～総合福祉会館までは、歩道の幅や勾配に課題がある。当該生活関連経路の見直しをお願いする。

また、先ほどの意見と同じく、現地点検や市民通報の仕組み強化を望む。

○委員

自転車は矢羽根表示があっても歩道走行が多く危険である。交通ルールの啓発など、すれ違いの安全確保を検討してほしい。

○会長

道路交通法に基づく取締りが強化されつつある。改善を期待する。

○委員

今回の現地点検の回答が「ガイドラインに基づく設置」で終わる例が多いと感じた。動線のわかりにくさ等、現場の工夫で改善できる点もある。点検の意義が損なわれないようにしてほしい。

○委員

知的障がいなど、障がい当事者の中には自主的な情報取得が難しい場合もある。特定団体だけでなく、市内すべての障がい者に届く周知を、学校や支援学級・支援学校も含めて行ってほしい。

○委員

今回追加を予定している生活関連経路（青色表示）の総延長はどれくらいか。

○事務局

現時点で約7kmを示している。10年間の計画で取り組む量として想定しているが、既整備路線も指定しているため、事業量はこれから確認する。

○委員

小中学校のバリアフリー状況は現地確認が必要である。災害時を想定して検討してほしい。

○委員

高齢クラブにおいては、各地区の代表者からバリアフリーに関する問題点などを聞き取る機会を設けている。問題が上がってくれば、市へ連絡したい。

また、江坂駅の現地点検で問題点をいくつか指摘した。すぐに対応していただける回答もあり、良かったと感じた。

○副会長

繰り返しになるが、吹田市では大規模プロジェクトを中心に環境アセスメント制度がある。大規模な再整備の際には、基本構想とも十分連携した計画づくりができればと期待している。

○会長

はじめにいただいたJR西日本に対する質問の状況を確認したい。

○委員

8月16日の午後1時過ぎに、JR吹田駅で切符を買い、コールセンターへのインターホンをした。私の前にも高齢者がインターホンを使っており、そこで15分程度待たされた。その後、20分程度待たされてやっとつながった。用件であるスロープ対応の係員は、横の事務所からすぐ出てこられたため、係員が近くにいるなら柔軟な対応をしていただきたと感じた。

○委員（JR西日本）

インターホンはコールセンターにつながり、内容を係員へ伝達して対応している。今回は集中対応に

より時間を要した可能性がある。事実関係を確認し、別途回答する。

○会長

人員等の事情はあるが、より柔軟な対応を検討してほしい。JR 西日本からの後日の回答をお願いする。

3. 閉会

《省略》